実務セミナー　　**関連部署**にご回覧ください

幾何公差で図面を変える設計改革

「設計意図」を徹底的に表現した図面に「製造・計測の視点」を加える
誤解を与えない図面表現により設計品質を向上させ、後工程（製造・測定）での手戻りを無くす

日時 2019年 6月 27日(木) 10:00～17:00
（9：30 受付開始、休憩 12：30～13：30）

主催 日刊工業新聞社

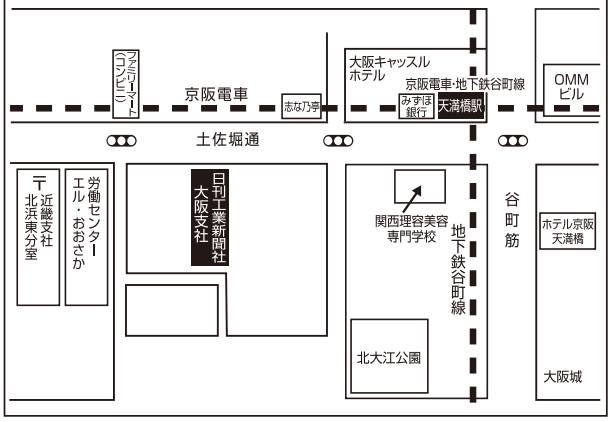
会場 日刊工業新聞社 大阪支社 セミナー会場
（大阪市中央区北浜東 2−16）

受講料 43,200円（資料含む、消費税込）
＊同時複数人数お申し込みの場合2人目から38,880円

大阪会場（日刊工業新聞社　大阪支社10階）

大阪市中央区北浜東2−16　TEL：06(6946)3382

＊天満橋駅（京阪電車、地下鉄谷町線）下車徒歩3分
■新大阪駅から地下鉄御堂筋線（新大阪→淀屋橋）北側出口 乗換、京阪電車（淀屋橋→天満橋）西改札口
■大阪駅から地下鉄谷町線（東梅田→天満橋）北側2番出口



日刊工業新聞社 大阪支社 セミナー会場

〒540-0031　大阪市中央区北浜東2−16
※会場には受講者用の駐車場がありません。必ず最寄りの公共交通機関でご来場ください。
※講義の録音・録画は固くお断りいたします。

●申込方法

申込書を郵送又はFAXにて下記にお申し込みください。ホームページからもお申し込みできます。（http://corp.nikkan.co.jp/seminars/）受講料は銀行振込で受講票及び請求書が到着次第、開催日1週間前までにお支払いください。
なお、キャンセルにつきましては開催日1週間前までの受付とさせて頂きます。1週間前までにご連絡がない場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。
振込手数料は貴社でご負担願います。

口座名義				
㈱日刊工業新聞社	りそな銀行	東京営業部	当座	656007
	三井住友銀行	神田支店	当座	1023771
	みずほ銀行	九段支店	当座	21049
	三菱UFJ銀行	神保町支店	当座	9000445

●申 込 先　日刊工業新聞社 総合事業局 教育事業部 技術セミナー係

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1（住生日本橋小網町ビル）
TEL 03（5644）7222　FAX 03（5644）7215
e-mail：j-seminar@media.nikkan.co.jp

受講申込書　6/27 幾何公差

お申し込みは FAX 03-5644-7215

■受講料：43,200円（資料含む、消費税込）＊同時複数人数お申し込みの場合2人目から38,880円　※振込手数料は貴社にてご負担ください。

会社名	フリガナ	業種	
氏名	フリガナ / 部署・役職	TEL	
所在地	〒	FAX	
	E-mail：	※今後、E-mailによるご案内を希望しない方はチェックをしてください。	□

※お申込み受付後、受講票ならびに請求書をお送りいたします。

No.192051

個人情報の取り扱いについて
ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。
なお、宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター　情報事業部　nkmail01@nikkansc.co.jp

開催主旨

ものづくりのグローバル化にともない、幾何公差の利用が求められる中、2016年3月に日本工業規格（JIS）が改正され、**「幾何公差」に対応した図面を作成することが必須**となりました。これまでの国内メーカーでは全く問題なかったものが、**同じ部品図面を別のメーカー（主に海外メーカー）に出した途端に製品に不具合が発生した**ということをよく耳にします。これは、**図面に対する公差指示が不十分**で、**設計意図が後工程に正しく伝わっていない**ことに起因しています。また、幾何公差を使っているという設計者でも、**現場に赴くことが難しく**なった昨今、描いた図面と実際の加工・測定との乖離から、**「管理しにくい」「コストアップになる」**図面になってしまうケースがあります。幾何公差を正しく使うことで、従来の寸法公差と違い**図面のあいまいさを無くし、設計者と部品メーカー間での認識のズレを排除し、設計者の意図通りの部品**ができることから**製品の不具合が減少する**ことに加え、**設計者の手戻りを大幅に削減する**ことができます。また、公差設計と組み合わせることで、基準を明確にして必要なところに幾何公差を適用し、**加工者・測定者が管理しやすい（＝コストダウン）図面を描く**ことができます。

本講座は、幾何公差が初めての方でも理解できるように、基礎から実践活用できるまでを説明します。その中では、**全ての幾何公差の解釈と測定方法**を説明するため、設計部門、加工・測定、品質保証部門等幅広い分野の方に有効なセミナーとなります。

講　師

株式会社プラーナー　シニアコンサルタント　**名取 久仁春**氏

【略歴】 2011年よりプラーナー　シニアコンサルタントを務める。主にメーカーでの集合教育や、工業技術センターでのセミナーの実績を積み重ねている。また、精密メーカーの設計部門におよそ３０年間在籍した経験を活かし、主に機械設計部門の実践指導にも当っている。
おもな著書に「幾何公差」（森北出版）がある。

プログラム

1．オリエンテーション

2．幾何公差適用の概要と目的、最新事情

3．GD&Tの考え方
（幾何公差は公差設計を前提として初めて効果がある）

4．幾何公差適用図面ご紹介

5．データム：概要、設定方法、優先順位

6．幾何公差及びデータムの図示方法、公差域

7．真直度～輪郭度（形状公差）の解説と測定方法紹介
- データム設定に重要な役割をもつ形状公差
- 真直度、平面度、真円度、円筒度、線の輪郭度、面の輪郭度

8．平行度～傾斜度（姿勢公差）
- 姿勢公差と位置公差の差異

9．位置度～輪郭度（位置公差）と測定方法
- 幾何公差の神髄は位置公差
- 真位置度理論、位置度、線の輪郭度、面の輪郭度
- 公差設計と複数幾何公差の活用

10．振れ公差と測定方法
- 総合品質を規制する動的な振れ公差

11．普通公差、その他

12．実践演習
- グループ演習